

秋季修學旅行軍歌 : 文苑

著者	?本, 植
雑誌名	龍南會雜誌
巻	4 2
ページ	3 2 - 3 2
発行年	1895-12-26
その他の言語のタイトル	秋季修学旅行軍歌 : 文苑
URL	http://hdl.handle.net/2298/4755

一句忽爾題に歸し
人をして覺えさら
しむ佳

た、め、に、か、利、に、走、り、つ、心、を、な、や、ま、す。人、の、身、の、う、へ、は、や、が、て、わ、が、身、の、上、と、思、へ、ば、
ま、を、に、見、す、ぎ、ゆ、く、に、え、忍、び、ず。傍、へ、の、土、深、く、埋、め、て、ね、も、と、ろ、に、回、向、す、ら、く、そ、も、
も、汝、は、何、處、の、人、の、は、て、に、し、て、い、か、なる、業、因、に、よ、り、て、今、は、ち、ろ、く、あ、さ、ま、し、き、姿、と、な
り、け、る、ぞ、や、わ、の、れ、汝、と、深、き、え、に、し、こ、そ、あ、ら、ぬ、情、に、し、の、び、さ、る、所、の、あ、れ、ば、吊、ひ、つ
る、な、り。汝、速、に、土、と、な、り、て、草、を、こ、や、し、も、て、佛、果、を、結、べ、よ、と、念、じ、た、へ、て、さ、て、勸、善、懲
惡、の、よ、か、た、り、に、も、し、つ、る、ま、を、い、さ、よ、か、書、き、し、る、ま、つ、る、に、な、む。

秋季修學旅行軍歌

黒本 植

(一) 頃は霜月秋のくれ 晴れゆく峰のみち葉を
思ひたつたの山風に あさちの露を掃はせて
進めを進めすむ身の

覚えは徳の基なり 覚えは徳の基なり
岩根松がね踏みならし 鶏なく月の宿出で、
人情風俗地理歴史

(二) 金石草木とりくいの 學理の鏡に照せつゝ
智識は御世の光なり 智識は御世の光なり
磨けやみがけみがく身の

(三) 旅より旅のなれ衣 身にまむ霜を重ねつゝ
南の臺灣北は露西亞 青山萬水目に満てり
銃を枕に見はなせば

武勇は國の護なり 武勇は國の護なり
鍛へや鍛へきたふ身の